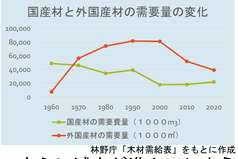
日本の森林問題の新たな解決法

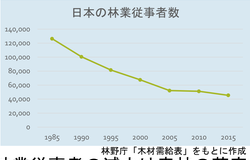
明治大学商学部水野勝之ゼミナール　宇留間滉太　佐々木翔大　原田祐里　諸橋花楓　簾尾昌弘　吉田凜子

１日本の森林問題の現状

- **国産材の需要が減少・外国材の需要が高い**
- **林業従事者の減少**



林野庁「木材需給表」をもとに作成



林野庁「木材需給表」をもとに作成

国産材の需要が上がらなければ林業従事者の経営は悪化し、さらに減少が進んでしまう。林業従事者の減少は森林の荒廃に繋がり、環境問題の悪化、自然災害の誘発に繋がり、人命にも影響を与える。この状況は改善されなければならない。

２解決方法

- **炭焼きの活性化**

日本の林業が活性化するには国産材が有効活用され、林業関係者の経営状態が安定する必要がある。木材の活用法の一つとして炭の利用があり、それを支えるのが炭焼きである。炭焼きが広まることで国産材の需要が高まる。そのため炭焼き産業の活性化も必要となる

- **木育を伝搬し森林への興味・関心を高める**

周囲に森林がない人々は自分たちの暮らしが森林によって守られていることを実感しにくい。木育を行うことで木や自然に触れる機会を作り、森林や林業の重要性・問題点に興味・関心を持ってもらう必要がある。

３実践

①一炭焼き体験一

- 炭焼き体験での気づき

２０２３年６月と７月に私たちは北海道の炭製造会社〔浦幌木炭〕さんの下で炭焼きの仕事を自分たちで体験した。炭や木材を運ぶ作業を高温の窯の中で行うことは体力がとても必要であった。仕事の実践とそのほかの作業、現状の話を聞き、若い後継者の必要性を感じた。

- 後継者問題

火を入れた後は炭窯の中の状態を確認することはできない。煙の色・匂いなどで中の状態を予測する。このように炭焼きには長年の経験による技術が必要であり後継者を育てるには時間がかかる。また、後継者がいなければ炭焼きは途絶えてしまい、再興は難しい。これは炭焼きに限らず林業をはじめ様々な産業が抱えた問題だ。

- 〔浦幌木炭〕の後継者育成

後継できる人を増やす

〔浦幌木炭〕は職人の佐藤行雄さんが体調を崩し廃業を決めたところで現社長の背古円さんが継承された。背古さんは佐藤さんと親せきなわけではなく炭焼きの経験もなかった。「後継といえば家族継承の印象も強いが、未婚化、少子化、核家族化が進む現代では家族継承は難しくなっている」、「木炭製造技術を長く継承するためには職人技術を複数人で引き継ぐことが大切だ」と背古さんは述べられた。家族継承も大切だが、後継者となりうる人の幅を広げることが今後は必要だろう。

オープンな炭窯

背古さんは炭窯をオープンな環境にしている。たくさんの方に炭焼きに触れてもらい、職人希望者と出会うためだそうだ。炭焼きなどの技術職は出会う機会も確かに少ないが、やはり近寄りがたいイメージもある。オープンな炭窯であることは、炭焼きがより多くの人にとって身近な職業となるきっかけになる。最近でも浦幌木炭には新たな職人さんが入ったそうだ。また、オープンな炭窯は新たなビジネスの機会に出会うことや広報の役割も果たしている。

後継者に
家族継承以外の選択

＋

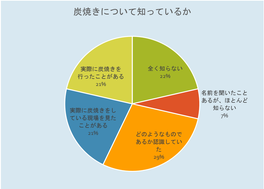
職業を知る・体験できる
環境づくり

＝

多くの
後継者

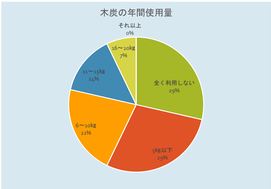
②お祭りでの調査

２０２３年１０月２９日に私たちは千葉県浦安市の舞浜３丁目自治会秋祭りに参加させていただいた。自分たちが作業を行った炭を使用した串焼きの販売で木炭の良さを伝えた。その後炭焼きや木炭についてのアンケート調査を実施した。結果は以下のとおりである。



回答者に話を聞くと炭焼きをバーベキューのことだと思い回答している人が多かった。つまり炭焼きとは木炭づくりのことであるということはほとんど知られていないことが分かる。＝**「炭焼き」の重要性の普及が必要**

熱源・脱臭など代表的な効果の認知度が高いが、土壌改良・食用などの認知度は低い。これらの認知度が高まれば、新たな木炭の使用価値が人々に生まれるかもしれない。＝**我々の今後の課題**



利用しない・5kg以下とい回答が半数以上を占めた。マンション暮らしも多い都会では木炭の使用は難しい。熱源以外の効果を広めるとよいかもしれない。＝**空気浄化などの効用も伝えるべき**

③工作教室による木育

実施内容

２０２３年１０月２９日に私たちは浦安市富岡公民館にて〔浦幌木炭〕の背古円さんを講師に迎え、自分たちが作った炭を使用して工作教室を行った。子供から大人まで計１０名の参加があった。普段接することのない木炭や木質ペレットに手で触れ、作品を作ることは子供のみならず大人も新鮮な体験となったようだ。木炭には燃料として以外の使用方法があることには驚きの声が上がった。

木育の必要性

木育を通して日本の森林の現状は多くの人々に知られるべきである。森林には災害を防ぐ効果があるが、荒廃すると逆に災害を引き起こす要因となるからだ。林業従事者の減少、国産材の使用量が少ないなどの様々な状況は改善しないといけない。木育の第1の役割は多くの人々に森林に興味を持ってもらい、木材の使用に関心を持ってもらうことだ。木育の第２の役割は子供たちの豊かな感性の発達、癒しに通じることである。さらに重要なことは木育が効果的なのは子供だけではないということである。熊本県長洲町では高齢者対象に木育を実施している。木を使用したモノづくりには脳トレなどと同じような効果がるそうだ。実際に長洲町の介護保険費用の総額を抑えることに成功している。

４今後の展望

炭焼きの体験、現状、後継者問題などの自分たち経験と学びを多くの人に広げていきたい。その手段の一つとして今後も工作教室などの木育を実施していく。そのためにまず木育インストラクターの取得を目指したい。木材や自然との直接の触れ合いを通して森林の大切さ、木材の良さ、使用することの楽しさを多くの人に体験してもらい、木育インストラクターとして様々な考えを伝承していきたい。木育は子供に限定せず、高齢者など大人に向けても行っていきたい。

５参考文献

田口浩継（2019）「介護予防に資する木育活動の検証と支援スタッフ養成カリキュラムの開発」16K07811. 研究成果報告書 最終閲覧日２０２３年１１月１３日
林業白書（2018）「第1節 第1章 第3節 林業従事者の動向（1）」林野庁　最終閲覧日２０２３年１１月１３日
森林・林業学習館HP　「我が国（日本）の木材自給率と供給量」森林・林業学習館　最終閲覧日２０２３年１１月１３日
ウッドレポート ＝ eTREE「木育とは？森とつながる幼児教育！効果や事例を紹介」eTREE編集室　最終閲覧日２０２３年１１月１３日
（紙面の都合によりURLは省略）